

日本リハビリテーション 病院・施設協会誌

Japan Association of Rehabilitation Hospital and Institution

192号

2024年9月発行

■ 巻頭特集

令和6年度 役員紹介

■ REPORT 令和6年度定時総会 議事録

■ REPORT 診療報酬・介護報酬改定対策を考える

■ 特別寄稿 令和6年能登半島地震やわたメデイカルセンター / JRAT

ZOOMIN 会員病院・施設

特定医療法人一輝会 荻原記念病院



一般社団法人 日本リハビリテーション病院・施設協会

令和6年度 役員紹介

5月29日に開催した令和6年度定時総会で役員・監事改選が行われ
「令和6年度役員」が決定した。
会長、副会長、常務理事、新任理事のメッセージを紹介する。



必要な方にどうリハビリテーションを届けるか 本筋を見失わず前を向いて活動

さいとう まさみ
会長 齊藤 正身 医療法人 真正会 霞ヶ関南病院 理事長

このたび、4期目となる会長職を拝命いたしました。2018年の就任以来、会員の皆様をはじめ協会関係者や関係団体の皆様からのご支援とご協力によりこれまで務めることができたことへの感謝と、改めて4期目の重責を担うことに対して身の引き締まる思いです。

これまで、当協会が大きな柱とする「地域リハビリテーション」の普及のため、理事や委員の皆様のご尽力のもとに、地域リハ塾やさまざまな研究活動、研修事業などを実施しリハビリテーションの深化・推進を図ってきました。また、日本医師会をはじめ日本病院団体協議会や全国リハビリテーション医療関連団体協議会など多くの団体との連携強化や、厚生労働省老健事業などへの取り組みが寄与するところも大きく、引き続き推進してまいります。途中、感染症の蔓延や大規模災害など予期せぬ事態にも多く直面いたしました。皆様の惜しみないご協力とご尽力により成果をあげられたものと思っております。改めて心より感謝を申し上げます。

残念ながら、このたびの診療報酬改定では当協会の方も及ばず、とりわけ回復期リハビリテーション病棟において大きな打撃となったことは周知のことと思います。質の高いリハビリテーションを提供すべく充実

した体制を整えている病院が認められなかったことは大変遺憾であり、医療や介護サービスに従事する多くの方々が安心して働きつづけるためには、時限的な手当てではなく自助努力で還元できる体制が必要であると痛感いたします。一方で、リハビリテーション・栄養・口腔の一体的取り組みの推進や共生型サービスの導入などは私たちの主張が実を結んだ結果と言えます。次回の改定ではいま一度リハビリテーションの価値を広く認識してもらうため、関係団体との連携を一層強化し戦略をしっかりと立てながら対応していこうと思います。

さて、会長就任時に起案し2018年に0期生32名からはじまった地域リハ塾も、昨年度に2期生が修了したことでトータル124名の塾生が輩出されました。その塾生たちはチームを組んで各地で積極的に活動しています。まだまだ全国に広がるまでには至っていませんが、皆様の病院・施設からもぜひ塾生をエントリーしていただき、その一翼を担っていただけますと幸いです。

私たちの協会は、必要な方にどうリハビリテーションを届けるかを大切にしながら、地道な努力を重ねるという本筋を見失わず前を向いて活動してまいりますので、これからもよろしく願いいたします。



副会長

こんどう くにつぐ

近藤 国嗣

医療法人社団 保健会
東京湾岸リハビリテーション病院
病院長

地域に必要とされている 病院・施設が評価されるように

当協会の副会長を継続して務めさせていただきます近藤国嗣と申します。協会におきましては、全国リハビリテーション医療関連団体協議会報酬対策委員会委員ならびに日本病院団体協議会診療報酬実務者会議委員など、主に報酬対策を担当しております。

令和6年度医療・介護・福祉トリプル改定は、急性期リハビリテーションの充実、医療・介護・福祉連携の強化など、リハビリテーション医療全体では拡充された結果でした。しかし、当協会の会員施設の多くが運営しておられる回復期リハビリテーション病棟につきましては、運動器リハビリテーションの1日あたりの

提供単位数の制限、体制強化加算の廃止など、非常に厳しい改定となりました。一方で、同病棟入院料1、2の施設基準に、「地域リハビリテーション活動支援事業等の地域支援事業に、地域の医師会等と連携し、参加していることが望ましい」とされたことは、当協会が進めてきた地域リハビリテーションの取り組みは評価されたと考えられます。会員の皆様のご指導、ご鞭撻を賜りながら、地域に必要とされているリハビリテーション病院・施設が真に評価されるような仕組みとなるように、微力ではありますが尽力させていただきます。何卒よろしくお祈りいたします。



副会長

さとう よしおき

佐藤 吉沖

医療法人 銀門会
甲州リハビリテーション病院
病院長

地域リハビリテーションの普及・啓発の継続 新たな展望と挑戦

昨年度途中から副会長に就任しました。以前から研修委員会委員長を務め、地域リハビリテーションの普及・啓発や教育・研修を担当しておりました。斉藤会長、近藤副会長、常務理事、理事の皆様と共に協会の発展に尽力してまいります。

新型コロナウイルスの影響により、地域リハビリテーション活動が一時的に中断されましたが、現在は各地域で再開されつつあります。診療報酬改定においても、地域貢献活動が重視されるようになり、これはリハビリテーションが単なる機能訓練ではないことを国が認めた重要な一歩です。このことは、老人保健健康増進等事業等における当協会の取り組

みの成果とも言えるでしょう。

地域リハビリテーション活動の再開にあたり、従来の方法に戻るのではなく、感染対策などを考慮した新しいアプローチが求められています。今年度のリハビリテーション・ケア合同研究大会では、「地域リハビリテーション新時代」と題し、新たな手法・役割を模索しながらの研究報告や活動報告を行う予定です。私が大会長として、プログラムを進めてまいります。

今後の10年は、高齢化が進む中で、働き手不足が深刻化すると予想されています。このような厳しい状況下であっても、会員の皆様と共に乗り越えていきたいと考えています。ご指導、ご支援をいただければ幸いです。



常務理事

い で まこと
井手 睦

社会医療法人 雪の聖母会
聖マリアヘルスケアセンター
病院長

次世代の働き手に 魅力ある業界になる発信を

齊藤会長の下で再度、常務理事を務めさせていただきます。委員会は、障害児・者支援検討委員会を担当します。対峙するエリアを狭くせずに、柔軟な発想で委員の先生方との意見交換を楽しみたいと思います。

福岡県南部にある当法人の立ち位置で、ICUから在宅までのリハの実臨床を俯瞰して20年以上になりました。

時勢と共に変わることそして変わらないことが当然ありますが、コロナ禍を経

た医療情勢の中で、リハビリテーションが他の診療領域に圧されつつあるのを感じている方も少なからずおられると思います。

社会のあらゆる職域で働き手の獲得が課題となった今日、若く質の良いヒトは「勢い」のある業界にしか目を向けてはくれません。将来の厳しい局面も囁かれる医療界の中において、次世代に魅力を発信できる方策が何なのか、会員の皆さまと考えていきたいと思っています。



常務理事

おおぐし みき
大串 幹

社会福祉法人
兵庫県社会福祉事業団
兵庫県立リハビリテーション中央病院
病院長

地域ごとの課題に対応できるシステムで、 地域リハビリテーションを継続的に進めていきたい

昨年度より常務理事、今年度から地域リハビリテーション推進委員会の委員長となりました。

リハビリテーションの視点で、地域づくり、地域力向上、地域支援を考え、時代に合った活動を行っていくことが求められています。

地域のニーズやデマンドは地域によって多様であり、その的確な把握とファクトチェックすら、個人ではパワーが足りません。地域の人々、行政、専門職、リハビリ

テーション病院・施設が協働することで、DXやネットワークが活用され、地域の問題やあるべき姿とのギャップ(課題)がオープンになり、効果的な活動につながる施策や制度の提案につながるのではないかと思います。

地域づくり、地域力の賦活に向けて、地域に根差した当協会会員各位の力を、地域リハビリテーション推進につなげられるよう努めてまいります。よろしく願いいたします。



常務理事

きくち なおひさ
菊地 尚久

社会福祉法人 千葉身体障害者福祉事業団
千葉県千葉リハビリテーションセンター
センター長

公立リハセンターで地域リハと 災害リハを充実させていきたい

今回常務理事の継続と新たに広報委員会委員長を拝命いたしました。会員施設の皆様に有益な情報を提供できるように努力してまいりたいと思います。

当センターでは県全体を俯瞰した地域リハを展開しており、県・地域リハ協議会・広域リハ支援センター・市町と協働して、質の高い地域リハを進めてまいりたいと考えています。

また当センターは千葉JRATの事務局

となっています。

千葉JRATは2015年に県との協定を結び、2024年には県と協議して協定使用に対するルール作りも行いました。

今回の能登半島地震でも当センターから3隊を派遣し、石川JRATに協力させていただきましたが、千葉JRATとして千葉県での発災に備えて、災害リハに対して平時からの準備を進めていきたいと考えています。



常務理事

たなか ゆきこ
田中 志子

医療法人 大誠会
内田病院
理事長

認知症の方と関わり 気づきを得られる活動を

本年1月、認知症基本法が施行され、ご本人の意思や活躍を尊重し人として同じ目線で彼らと暮らすことが定められました。また、原因として認知症が大きな割合を占める病棟での身体拘束を減らすことへ評価がより促進されました。

今後はリハビリテーションを受ける認知症の方が増えてくることが考えられます。

協会では認知症支援検討委員会一筋で仕事をし、いくつも認知症に関する

研修会や認知症の方に困っている現場との1on1の相談会を行い、その内容を本誌に連載もしてきました。少しずつではありますが、認知症の方への関わりに興味や楽しさを持てる皆様も増えたと期待しています。

今後さらに皆様が「認知症の方と関わることで楽しいし、認知症だからといって特別なことではなくて普通の患者さんだ。もっと考えれば普通の地域住民だ!」と気づける活動をしてまいります。



常務理事

とくなが よしはる
徳永 能治

一般社団法人 是真会
長崎リハビリテーション病院
法人本部診療統括

今後の対策に資する協会調査への さらなるご協力を

調査・検証員会では、継続調査①-③及び臨時調査④を実施しております。①「会員施設調査」②「回復期から生活期までのリハビリテーションの効果に関する調査」③「地域包括ケア病棟退棟後の生活期リハビリテーション効果に関する調査」④「生活期外来医師リハビリテーションについての調査」が主な活動です。調査①は本年67%の回答率でした。今後も多くの回答をいただけるように整えてまいります。②は、生活期リハの成果要因を分析し、診療報酬改定に寄与できたと思われまます。③では、地域包括ケア

病棟協会と合同で委員会を開催し、地域包括ケア病棟、退棟後リハ実施状況について、またリハ効果について未検討の分野を明らかにしてまいりました。臨時に④を行い結果をホームページに掲載しました。生活期の定期的なりハビリテーションに関わる医師の実態を明らかにし、医師による外来診察は有意にADLの改善を示すことができました。

本年は診療報酬介護報酬改定の年であり、近日中に改定に伴う影響や対策について臨時的調査を行い会員施設の今後の対策に資することができるように努めてまいります。



常務理事

ひら た よしふみ
平田 好文

医療法人 堀尾会
熊本託麻台
リハビリテーション病院
理事長

2025年問題とフレイル予防 —わたしたちの戦略は?—

今年度から地域リハ推進委員長を大串先生にバトンタッチして、わたしは副委員長をさせてもらうことになりました。大串先生と地域リハ推進委員会の3年計画の残り2年を推進したいと思っています。現在、わたしの頭の中は2025年問題でいっぱいです。後期高齢者が一挙に増加して、独居が実に33%となり、プレフレイルとフレイル合わせて50%にも達するとの報告をみると、フレイルをそのまま要介護者

に移行させては大変なことになります。

わたしたちは、フレイル予防の戦略として「転倒骨折しない街づくり」を熊本県に提案し、今年、フレイルから始まる地域リハビリテーションをテーマとして掲げています。熊本市から広げていくために地域密着の啓発戦略が必要です。全国の地域リハビリテーションの方から指導を受けながら、活動していきたいと思っています。よろしくお願ひします。



常務理事

わかばやしひでたか

若林 秀隆

学校法人 東京女子医科大学
東京女子医科大学病院
リハビリテーション科教授

医科歯科連携のさらなる推進を リハ・栄養・口腔連携をよりよくするために

今回、常務理事と医科・歯科連携推進委員会の委員長を継続することになりました。

令和6年度の報酬改定で、急性期病院ではリハ・栄養・口腔連携体制加算、リハ・栄養・口腔連携が求められる地域包括医療病棟、回復期リハ病棟の入院基本料1、2では口腔管理および歯科との連携体制整備、介護保険ではリハマネジメント加算(ハ)など医科歯科連携を含めたリハ・栄養・口腔連携が多くのセッティング

で新設されました。これは当協会から出していた医科歯科連携の要望が反映されたと考えています。しかし、歯科標榜していない回復期リハ病棟に勤務している歯科衛生士への評価はありませんでした。医療や介護の現場でリハ・栄養・口腔連携がどの程度推進されるかはわかりません。今回の報酬改定による算定の実態や要望に関する調査を行い、よりよい加算や仕組みになるよう努力します。

今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

新任理事紹介



あまくさ やよい
理事 天草 弥生

医療法人 敬愛会
リハビリテーション天草病院
理事長・病院長

摂食嚥下リハビリ・口腔と栄養 —医科歯科連携の重要性

はじめまして、このたび当協会の理事を拝命いたしましたリハビリテーション天草病院理事長・病院長の天草弥生と申します。

当院は埼玉県越谷市にあり、175床全床が回復期リハビリテーション病床で、脳血管障害の患者さんが8割を占めております。また、院内併設歯科があり、医科歯科連携による摂食嚥下リハビリテーションにも力を入れており、経口摂取回復率は50%を超えています。

口腔機能と栄養に密接に結び付いている歯科はリハビリテーション医療とは切っても切れない関係です。2025年には5人に1人が後期高齢者という超高齢社会を迎えますが、人が健康で長生きするためにも医科歯科連携は益々重要になってくると日々実感しております。

現場での様々な経験を活かし、微力ながらも当協会の活動に力を尽くしてまいりたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



いけばた ゆきひこ
理事 池端 幸彦

医療法人 池慶会 池端病院
理事長・病院長

地域医療におけるリハビリテーションの 重要性を身にしみて感じる

このたび、令和6年度定時総会に於いて新たに当協会理事にご選任いただいたこと、心より感謝申し上げます。当院は福井県の片田舎で父から継承した30床の療養病床1病棟(うち地域包括ケア病床13床)の在宅療養支援病院を拠点に、病棟リハ、通所リハ、訪問リハ、予防リハ等を一体的に提供することで主に在宅支援に特化した医療・介護を展開しています。私自身は、外来、入院、訪問等の地域医療

の第一線に身を置きながら、現在、日本慢性期医療協会副会長、福井県医師会会長、中医協委員等を拝命しており、地域医療におけるリハビリテーションの重要性は身にしみて感じております。今回の理事就任を契機に、当協会を通じて最先端のリハビリテーションの技術や考え方をしっかり学ばせていただき、少しでも協会のお役に立てるよう精一杯務めたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



えのき しんさく
理事 榎木 晋作

医療法人 あすか会
介護老人保健施設アンジェロ
理事長

地域リハビリテーションを核として あらゆる人の仕合せを目指した地域づくりを

このたび、理事を拝命いたしました榎木晋作と申します。この大役に身の引き締まる思いでございます。

私は地域の方々が住み慣れたところでその人らしく最期まで暮らし続けられるために奈良市に老健アンジェロと生駒市に老健ハビリスという2施設で在宅復帰にこだわる一方、診療所を中心に複数の居宅サービスや地域密着型サービスで在宅支援に取り組んでおります。これから地域リハビリテーションを核として、地域共生

社会の実現にもっと細かい地域診断を行い、医療・介護・福祉等の制度、行政の役割や世代の枠などの関係を超えて、あらゆる人の仕合せを目指した地域づくりに向けて取り組んでまいります。

しかしながらまだまだ未熟で、分からないことも多々ありますので、諸先生方のご指導をいただき、一生懸命勉強しながら精一杯務めさせていただきたいと思っております。ご指導のほど、よろしくお願いいたします。



くしろ ひろし
理事 久代 裕史

医療法人 五星会
新横浜リハビリテーション病院
病院長

外科医からリハビリテーション病院へ 地域での役割をしっかりと果たしたい

このたび、日本リハビリテーション病院・施設協会の理事を仰せつかり、身の引き締まる思いです。

どんな貢献ができるのか不安ではありますが、ご指導ご鞭撻をいただきながら頑張っていこうと思っています。

私は1984年に昭和大学を卒業して外科学教室に入り、ずっと手術に明け暮れていました。

2007年の新横浜リハビリテーション病

院開院時に院長に任命され、これを機にリハビリテーションに関わることとなりました。

回復期リハビリテーションの専門病院として始まりましたが、昨年9月に地域包括ケアと緩和ケアを含む新病棟が増設され、広がった地域での役割をしっかりと果たしていこうと、職員と共に奮闘しているところです。

どうぞよろしくお願いいたします。



みやむら こうへい
理事 宮村 紘平

社会医療法人 河北医療財団
河北リハビリテーション病院
病院長

リハビリテーションの機能の分化と深化が進む中、 回復期リハの役割をしっかりと果たしたい

このたび、日本リハビリテーション病院・施設協会の理事を拝命いたしました河北リハビリテーション病院の宮村紘平です。

河北リハビリテーション病院は東京都杉並区に展開する河北医療財団のリハビリテーション医療の拠点として2001年に開設され、地域完結型のリハビリテーション医療の発展に取り組んでまいりました。私自身、東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座にてリハビリテ

ーション医学の教育にも関わっており、回復期リハビリテーション病院と大学との連携を深めることに尽力しております。急性期、回復期、生活期の医療機能の分化と深化が進む中、病病連携・病診連携・在宅医療や地域福祉サービスとの結びつきをさらに強化してまいり所存です。若輩者ではありますが先生方からのご指導を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。



よしだ なおひこ
理事 吉田 直彦

医療法人 同仁会
おおぞら病院
理事長・病院長

共生社会の実現に向けて、 リハを通してできることを考えていきたい

このたび理事を拝命し、身に余る光栄に存じます。私は内科を専攻していますが、2009年に当院の回復期リハビリテーション病棟立ち上げを機に、リハビリテーション医学会の認定医を取得し、多疾患を抱えて入院される患者さんに、全身状態の安定とリハ介入による機能回復の両面で関わってまいりました。

当協会の目指す「共生社会」と当法人名の由来である「一視同仁」はいずれも、全世代、あらゆる障害に対して、分け隔て

なく接するという意味で、同義語であり親しみを覚えます。リハビリテーションは、超高齢社会・多様性のある現代社会の中で、皆様の生活の質を向上させる極めて重要な存在です。

私のような若輩者がこのような重責を担うことに、不安もございますが、未熟さを補うため、日々研鑽を積み、当協会の発展に少しでも寄与できるよう、全力を尽くしてまいります。

何卒よろしく願い申し上げます。



外部理事
うちやま かずし
内山 量史

一般社団法人
日本言語聴覚士協会
会長

都道府県言語聴覚士会との連携により 専門性の高いサービス提供を目指す

このたび、理事に就任いたしました、日本言語聴覚士協会会長の内山量史です。本誌をご覧の皆様には、日頃よりご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。地域リハビリテーションの推進に尽力する機会をいただき、大変光栄に存じます。

言語聴覚士の質の向上は、地域の健康と福祉に直結する重要な課題であり、我々の使命でもあります。

今後、地域リハビリテーションの充実を図るため、都道府県言語聴覚士会との連

携をさらに強化し、人材育成の機会を充実させ専門性の高いサービス提供を目指してまいります。

また障害者総合支援法の地域生活支援事業として都道府県で実施されている失語症者向け意思疎通支援事業の充実により地域で生活を送る失語症のある方の生活の質が向上することを期待しています。

皆様のご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしく願い申し上げます。



外部理事
もり や よしお
守屋 義雄

公益社団法人
日本歯科医師会
理事

歯科医師の経験を活かし 医科歯科連携から新たなチャレンジを

日本歯科医師会・地域保健担当事務の守屋義雄と申します。このたびは日本リハビリテーション病院・施設協会の理事の一員として、新たな役職に就くこととなり、大変光栄に思っております。日本歯科医師会理事だけではなく、神奈川県歯科医師会の会長も兼務しています関係で、歯科を代表してお役に立てるよう努力していく所存です。

近年医科歯科連携が注目されていますが、現場では十分に連携が取れている

とは言えません。これまでの経験を活かし、皆様と共に協力し合い、協会の使命であるリハビリテーション病院・施設の発展と、患者様のさらなるケアの向上に向けて努力してまいります。

日本リハビリテーション病院・施設協会は、私にとって特別な場であり、新たなチャレンジを楽しみにしております。皆様のご支援とご指導を賜りながら、共に成長していければと願っています。何卒、よろしく願い申し上げます。

CONTENTS

2 巻頭特集

令和6年度 役員紹介

- 11 **REPORT 1** 日本リハビリテーション病院・施設協会 令和6年度定時総会 議事録
- 17 **特別寄稿** 令和6年能登半島地震 ①被災地からの発信
県内で震度7大地震が発生した病院として経験したこと
勝木 保夫
- 20 **特別寄稿** 令和6年能登半島地震 ②JRATの支援活動
高齢化・交通分断された被災地で災害リハから地域リハ支援に移行するまで
近藤 国嗣
- 22 **REPORT 2** 令和6年度 第1回リハビリテーション研修会
診療報酬・介護報酬改定対策を考える
近藤 国嗣 若林 秀隆 岡持 利巨
- 26 **連載** 病院・施設におけるコーチングの活用
承認がモチベーションを加速する
井上 清美
- 28 **トピック 1** 認知症ケアお悩み解決塾 1on1研修報告【最終回】
田中 志子
- 30 **トピック 2** 地域における臨床研究のススメ13
傾向スコアを用いた交絡への対処方法(実例編)
紙谷 司
- 32 CURRENT TOPICS 厚労省関連ニュース
- 33 **ZOOM IN** 会員病院・施設
特定医療法人一輝会 荻原記念病院(兵庫県)
- 38 **Information**



■おくやみ■

太田利夫先生が逝去

日本リハビリテーション病院・施設協会の理事および調査・検証委員会委員を2014年から5期にわたり務められました太田利夫先生(社会医療法人甲友会西宮協立リハビリテーション病院名誉院長)が、6月17日に逝去されました。66歳。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

**※このページ以降の誌面をご覧ください。場合は、
当協会への入会が必要です。**

ご入会のお手続きは下記へ



【入会について】

<http://rehakyo.jp/about-join>